

# 震災対応訓練【バール編】



説明動画  
QRコード

## 訓練実施時の服装について

- 長袖・長ズボン・・・怪我のリスクを減らす
- 底の厚い靴・手袋・・・がれきによる怪我を減らす
- ヘルメット・・・落下物から頭を守る
- ゴーグル・マスク・・・がれきによる粉じん被害を軽減する



## バールの取り扱いについて

### ①バールの使い方

バールは、てこの力を利用して 地震で倒れた家具や柱の持ち上げや開かなくなったドアや窓をこじ開けることができます。

柄の長い大バール(長尺バール)は、てこの力が大きく働くため、一本で約500Kgの物を動かすことができます。



### ②バールの置き方



バールを置くときは、先端を伏せた状態で置きます。



先端を立てた状態で置くと、誤って踏んだときにバールが跳ね上がり負傷するおそれがあります。

### ③重量物の持ち上げ



両手はバールを握らず添えるように持ちます。

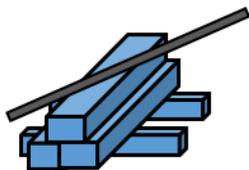


バールに覆いかぶさるように操作すると、バールの跳ね返りで負傷するおそれがあります。

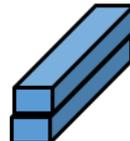
### ④支点の設定要領



OK



OK



2段までOK



3段は転倒危険NG

支点を設定する際に使用する木材をあて木といいます。今回動画では縦9cm×横9cmの角材を長さ60cmにカットしたものを使用しています。



## ボールを活用した救出方法

YouTube  
動画公開中！

1

### 状況確認

- 周囲の状況を確認して安全を確保する。
- 要救助者の意識の状態や負傷箇所を確認する。
- ボールで持ち上げる箇所を選定する。
- 再崩落防止のため、あて木などを使用して隙間を確保する。
- ボールを活用してがれきや救出に支障となる物を除去する。



2

### 重量物の持ち上げ

- てこの原理でボールをゆっくりと操作して重量物を持ち上げる。
- ボールは握らず添えるようにし、覆いかぶさらないように注意する。
- 安全管理員を配置し、持ち上げ箇所の反対側や要救助者の状態などを確認する。



3

### 安全対策

- 隙間ができれば、重量物の落下防止のため、あて木などを使用して隙間を確保する。
- 余震等により再崩落すれば救助者まで挟まれる可能性があるため、隙間を確保する際は、重量物の下に手などを入れない。



4

### 救出

- 要救助者を救出できる隙間ができれば、重量物の下に手などを入れないようにして素早く引き出し、安全な場所に搬送する。



### まとめ

#### 訓練を行うときの人員

- ・安全管理員 2名以上
- ・救助者 2名以上
- 安全管理員を配置して事故のないように訓練を実施しましょう。
- 支点の設定要領を守って実施しましょう。
- 訓練を行う場合は、お近くの消防署に訓練の相談をしてください。

